

## 1年生道徳の授業

昨日7日(金)の5時間目に、1年2組で道徳の研究授業が行われました。教科書の中の「おふろそうじ」というお話でした。

あらすじ:あきは毎日、お風呂掃除をしている。「あきのおかげで毎日きれいなお風呂に入れて幸せだなあ。」おじいちゃんがにこにこしながらお風呂から出てきました。お父さんもお母さんもお姉さんも、「大したもんだ」と言いました。でも「寒いと手も足も冷たくて大変よ。」とお姉さんは心配そうです。「ぼく、やるもん。」大きな声であきは言いました。「お風呂場掃除も勉強も、ぼくの大事な仕事だもの。」あきはぴよんぴよんはねながら、歌うように言いました。

今回の授業の「見つめる心(めあて)」は、「じぶんのやるべきことをがんばると、どんないいことがあるのだろう」というものです。今回の道徳は、「お風呂掃除」ということで、「帯西イエロー」の勉強かと思いがちですが、主人公のあきの「ぼくやるもん」と言った思いを考えることで、やり遂げた喜びや充実感を味わわせていく教材ですので、「帯西レッド」の心の勉強になります。

授業の中で、担任の長谷川先生と子供たちの役割演技がありました。お姉さん役の担任が「寒いと手も足も冷たくて大変よ。」と問うとあき役の子供は「ぼくやるもん、だって『お家の人のいい顔を見たい。』」と答えると、担任が「いい顔ってどんな顔？」と問い返すと「いい気持ちになって、わくわくする顔。」とこたえていました。

そして、もう一度、「じぶんのやるべきことをがんばると、どんないいことがあるのだろう」と問い、子供たちは小グループで話し合いました。グループで出た意見を学級全員で共有する場面では、「そのことが続けられるようになる。」「お家の人が喜んでくれて、自分もうれしくなり、できるようになる。」とグループで出た意見を出し合ってくれました。そして自分を見つめて、考えたことを子供たちは発表しました。「やるべきことをがんばると、どんどん上手になって、お家の人の笑顔が見れるから、もっとがんばらなくちゃと思いました。」「今まで練習しても試合に出れなくて、もういいやと思っていたけど、練習すれば出れるかもしれないから、しっかりがんばりたいです。」と自分事として考えていました。

最後は、「ころかやけ月間」で保護者の方からのアンケートを紹介しました。「みんなの中で友達や上級生の姿をお手本に勉強やお手伝いなど当たり前になれたことがとっても素敵です。当たり前が広がって、これから見られる成長が益々楽しみです。」と担任が読み上げると、子供たちみんなが微笑んでいました。

今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、外部から講師を招いて、全職員で授業研究会を行いました。そこでは、皆で一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりしました。1年生がしっかりと自分と向き合って、意見を自由に言いながら授業に取り組む姿に感心していました。これからも全職員で、子供たちの道徳性を高める授業づくりを考えていこうと思います。今回の授業は1年部でも共通実践を行い、1年生全員の心が育ちました。1年2組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。

